

市民の力をあわせ、 大阪のまちを大きな セーフティネットに

大阪希望館

「大阪希望館」は旧来のイメージの福祉施設ではありません。「支えあい」の気持ちを共有していただける市民をつなぎ、まちの民間住宅や民間事業を「社会資源」として位置づけ、中心に「相談センター」を、周りに緊急宿泊先やチャレンジ就労先を配し、地域や市民のネットワークで再出発を支援する。まったく新しい市民主体のセーフティネットづくりの運動です。

●「大阪希望館」のめざすもの

誰も使いすてにされない、誰もホームレスにされない社会を、主張や立場を超えた市民のセーフティネット運動で実現していくことです。

●「大阪希望館」の主な対象は

「派遣切り」や日雇派遣の激減・解雇リストラなどで仕事と住まいを失った人たちや、社会的な困難を背負って住まいを失い支援がなければ野宿生活に陥らざるをえない人たちです。

●「大阪希望館」の事業内容は

- 野宿生活になる前に受け止めて、公的セーフティネットにつながるまで緊急的宿泊と食事などの提供により再出発を支援します。
- 再出発の方向や方法を一緒に模索し、考える時間と場所を提供します。
- 入所中に医療受診・就労相談・福祉生活相談など各種相談を実施します。
- チャレンジ就労事業を実施し、「働くリズム」の堅持と一定の収入を提供します。
- 再出発後も、仕事や生活の不安や悩みにぶつかったとき、いつでも相談できる支えの場となります。
- 支えるための市民の「社会資源」を開拓して豊富化するとともに、新たなモデル福祉事業として行政からの支援を要望していきます。



衣類・生活用品など物品提供にもご協力を

「大阪希望館」の開設、特に支援居室を活用した緊急支援事業のスタートにあたって、衣類や日常生活用品などの提供にもご協力をお願いします。タオル類やシーツ、石鹸・洗剤などの生活用品が不足しています。使用されずにご自宅で眠っているものがあれば是非提供してください。また、自立に向けた求職活動のために背広やカッターシャツ・ネクタイなども提供していただければ助かります。但し、日用品は新品に、衣類は古着でも構いませんが、クリーニングされたものに限定させていただきます。

単組やブロックで「支援物品」をお取りまとめいただいたら、自治労大阪府本部政策局(06-6242-2233)まで連絡をお願いします。

「大阪希望館」という名称は 終戦直後、大阪市が大阪駅高架下に開設した「梅田厚生館」とその館長をモデルとした難波利三さんの小説「大阪希望館」から、ご本人の快諾を得て、名づけました。「一時保護所」は終戦直後、戦災孤児や家を失った母子や高齢者、復員兵な

どを保護した施設でした。大阪市立でありながら公費は乏しく、運営経費のほとんどが館長の才覚と市民の善意で賄われました。難波さんはこの小説の中で、戦後の困難な時代を生き抜いていく大阪市民のしたたかさや情の厚さを見事に描いています。

大阪希望館

大阪市北部に開設 相談支援活動スタート

連合大阪が連合「雇用と就労・自立支援のためのカンパ」を通じて支援する「大阪希望館・相談センター」が5月30日に大阪市北部に開設され、いよいよ活動をスタート。6月初旬には相談センターの近隣に支援居室5室も開設され、緊急支援事業も始まります。

「大阪希望館」の運営はカンパや寄付金で賄われます。自治労大阪府本部も今後、街頭カンパなどで市民の協力を呼びかけます。連合カンパはその第一歩。自立をめざして頑張る人たちへの支援の思いをカンパに込めて、組合員の皆さんのご協力をお願いします。



「大阪希望館・相談センター」内覧会には、連合大阪など呼びかけ団体の代表や支援スタッフが参加。マスコミも取材に駆けつけた。

「大阪希望館」設立記念集会に参加を

- 日時 7月11日(土) 午後1時30分～
- 場所 浪速人権文化センター (JR環状線「芦原橋」駅すぐ)
 - パフォーマンス あんがいおまる一座
 - 記念講演『「思いやり格差」社会から『支え合う』社会へ』
講師 稲場圭信さん(神戸大学大学院准教授)
 - あいさつ 難波利三さん(作家)



難波さんが激励訪問

「大阪希望館」準備会事務局を小説「大阪希望館」の作者・難波利三さんが訪問。「格差社会で豊かな人を横目に、貧困から自立に向けて頑張ることは、終戦直後より厳しい。

その支援に取り組む皆さんに敬意を表し、応援したい」と激励した。

自治労大阪府本部

大阪市北区天神橋3-9-27
PLP会館1階
Tel 06-6242-2233

大阪希望館への 支援カンパにご協力ください

住まいをなくした人のための再出発支援センター

